

外務省藏版
日本外交文書別冊

小村外交史
上

新聞月鑑社



第二次外務大臣当時の写真
(1908—1911)
(明治41年—44年)

例 言

一、外務省編纂の「日本外交文書」は、目下明治二十七年度分を了り、とりいそいで続刊するよう進めているが、しかし明治時代を完了するには、なお兩三年を要する。また右は極めて専門書であるので、一般読者にとつては恰好なものとはい難い。そこでこゝに、信夫淳平博士の旧稿「侯爵小村寿太郎伝」を補訂のうえ、「日本外交文書」別冊『小村外交史』として刊行することとした。

一、「侯爵小村寿太郎伝」は大正十年代の稿になるが、種々の理由から、外務省に秘藏してきたものである。

今般發刊にあつては、改めて信夫博士に一覽をねがい、更に青木新元公使、佐藤信太郎元参事官に閲読および添削を願つた。

一、しかし、本書の最終的補訂および年表の作成には、臼井勝美事務官が主として苦心をほらつた。その際「外務省記録」のほか、「日英外交史」「日露交渉史」「通商條約と通商政策の變遷」(何れも外務省編纂)等を主に参照した。

一、なお本書には必要な索引を欠き、また用字、用語、かなづかい等の不備、或いは構文なら、
びに見解の不統一な箇所が見られるが、史実を伝えることを主旨として、そのまゝ出版する
ことにした。この点特に御了承を願いたい。
なお敬称は殆んど之を省略した。

昭和二十八年二月

編 者 誌

目 次 上

第一章 前 史	一
第一節 生い立ち	一
第二節 大学南校より米国留学時代	二三
第三節 司法官時代	三五
第四節 外務省翻訳局時代	五九
第二章 日清戦役時代	四二
第一節 外交官としての初舞台	四三
第二節 民政長官から政務局長	五三
第三章 駐韓公使時代	六九
第四章 外務次官時代	七三
第一節 帰朝後の韓京政局	七五
第二節 清国に於ける列国の活動	一〇三
目 次	

目 次

第三節 米布合併の対策	一三
第四節 党禍の外に去る	一三
第五章 駐米公使時代	一五
第六章 駐露公使時代	一八
第七章 駐清公使時代	一五
第一節 義和団の騒乱	一五
第二節 善後折衝	一五
第八章 第一次外務大臣時代	一九
第一節 桂内閣の成立	一九
第二節 満洲問題の前半	二五
第一款 露清密約の打破	二五
第二款 満洲還附協約成る	二三
第三節 日英協約の締結	二〇
第一款 同盟交渉の発端	二〇

第二款 同盟交渉の経過並びに成立	二〇
第四節 満洲問題の後半及び日露の開戦	二七
第一款 満韓問題に関する日露協議	二七
第二款 露国の満洲撤兵不実行	三〇
第三款 日露の交渉	三二
第四款 交渉の断絶	三六
第五款 交渉断絶前に於ける列国との関係	三五
第五節 戦時外交	三八
第一款 対露反駁及び中立国の態度	三八
第二款 外債募集	四〇
第三款 旅順陥落前後に於ける講和論の推移	四三
第四款 奉天会戦後に於ける講和問題	四九
第五款 日本海々戦から米国大統領の和議斡旋	四八